

熊本大学附属図書館

東光原

NewsLetter

No.50 (2024.2)



図書館公認キャラクター くまぼん

## CONTENTS

- >> 第16回 熊本大学東光原文学賞  
受賞者インタビュー 2-3p
- >> 第16回 熊本大学東光原文学賞 表彰式 4p
- >> 「第38回 貴重資料展」を開催！ 4p
- >> 図書館のできごと 4p
- >> クラウドファンディング達成御礼 4p

# 第16回 熊本大学 東光原文学賞 受賞作決定！！



今号では、受賞者インタビューを掲載！  
作品集は3月刊行！図書館にて無料配布します

# 第16回 熊本大学東光原文学賞 受賞者インタビュー



## 学長賞

### 「Absolute/Fragile」 P.N. 詞創

—質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

掛け値無しに信じていたもの、信じていなかったものがあつて打ち砕かれたときの、堪え難い痛みとの向き合い方について書きました。

—質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦勞したことなどを教えてください。

本作で取り上げた卓球とキックボクシング、その両方において、作者である私自身はまったくの素人です。特に卓球については特段好きでもなければ日頃観戦する趣味も持ち合わせないので、高校卓球の制度、技術論を調べるなど「わかってる感」を出すのに腐心しました。また、男性である私が女子大生視点の語りで話を進めるのは、難しいながらも楽しい体験でした。表彰式後の懇談会にて、審査員のとある先生からいただいた「この作品を書いたのが男性とは思わなかった」というお言葉には思わずニヤリとしまいました(笑)。

—質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスををお願いします。

小説の上手さというのは「どれだけ巧妙な嘘をつけるか」の言い換えだと私は考えています。たとえ自分が実際に経験したことのない題材について書くとしても、入念な下調べ、得た情報の適切な取捨選択、そしてその描写に身体性を伴わせることによって「嘘」の強度、完成度は上がります。確かな知識と関連な想像の両輪が揃ってこそ、豊かな小説が生まれるのではないのでしょうか。

—質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

伊坂幸太郎『逆ソクラテス』 佐藤究『テスカトリポカ』『幽玄F』 小川洋子『猫を抱いて象と泳ぐ』 浅田次郎『一刀斎夢録』『壬生義士伝』 江國香織『きらきらひかる』 今慈ムジナ『ふあゆ』 千葉まりお『自分ドロップ』

—質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

本作の(勝手な)イメージソングは空白ごっこ『天』です。めっちゃ良いバンドなのでこの曲に限らず是非一度聴いてみてください！

## 附属図書館長賞

### 「青海」

池田 結理愛

—質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

この小説は主人公である語り手が日本からイギリスへと渡り、再び日本に戻って来る話です。主人公は当初は外国に対してあまり良い印象を持っていませんが、とある出会いによって意識が変わって行きます。

この小説のテーマは「人と人とのつながり」です。先入観や周囲の評価に囚われずに自身が掴んだ縁を信じるようにと主人公が成長するように意識しています。国や立場に固執することなく同じ時代を生きるものとして主人公が生に向き合う様が伝われば幸いです。

—質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦勞したことなどを教えてください。

小説を書くときに意識したことは、読者に向かって主人公である「わたくし」というキャラクターが読者に語り掛けるようにしたこと。物語が主人公の目線を通して読者に話しかけているようにするために、口に出して詰まることのない流れるような文章になるように意識しました。

工夫したことはこの小説の主人公の正体が分からないようにしたこと。話が進むにつれて主人公に読者が違和感を抱きつつも正体への確信を得られぬまま最後にその正体へ至るために、少しの矛盾を織り交ぜながら、それでいて変に思われないような程度に主人公である語り手を設定しています。

苦勞したことはこの小説は歴史的背景と照らし合わせて構成しているため、歴史的な事実に間違いがないか、また、事実に合うように物語を修正したこと。

—質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスををお願いします。

少しでも応募したいという意志があるならば、まず書いてみることをお勧めします。私自身今回初めて小説を書きましたが、書いていくにつれて物語を創っていく楽しさに気づくことができました。ペンを持って紙に向き合うことで見えてくることも沢山あるはずですよ。

—質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

太宰治『パンドラの匣』、司馬遼太郎『燃えよ剣』

—質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

この小説は私の出身地にある実話をもとに書きました。今回この小説を書いて地元について考える良い機会になりました。是非読んで頂けると嬉しく思います。

受賞者4名の方々に、様々なお話を伺いました！今後文学賞に応募したいと考えている本学学生の皆さんにとっては、参考になることも多いのではないのでしょうか。また、1/12(金)に行われた表彰式の模様は、次ページに掲載しています。



## 附属図書館長賞

### 「ネバーランドの黎明」

坂田 悠美香

#### —質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

大人と子どもの境目はどこだろうと考えたことが作品を書いたきっかけです。その境目が個人の自由や権利に委ねられた世界や、夜にだけある独特な解放感が、読んでくれた人に伝わっていたらとても嬉しいです。

#### —質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

小説を書く、という行為自体ほとんどしたことがなかったので、そもそも書き切ることが難しく、文字数を調整することも大変でした。また、物語内で子どもとして生きる2人は、あだ名と本名の印象が違う印象になるように工夫しました。

物語内で生きている人たちに、現実の自分と環境を投影させすぎないようにずっと気をつけていたのですが、あまり上手くいっていないと思っています。それでも、彼女たちの存在が立ち上がるのを感じられたときは楽しかったです。

#### —質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

私は「作品を完成させて応募締め切りまでに提出すること」だけを目標にしていました。不純な動機ですが、あわよくば副賞の図書カードが欲しいな、とも。執筆経験もほぼなかったので、自分の作品に自信があったわけではなく、今でもそれは変わりません。こんな私が言えることではありませんが、まずは挑戦すること自体に意味があることを信じられると素敵だと思います。

#### —質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

「図書館戦争」「レインツリーの国」有川ひろ、「朝が来る」辻村深月、「また、同じ夢を見ていた」住野よる、「優しい死神の飼ひ方」知念実希人、「獣の奏者」上橋菜穂子、「傘をもたない蟻たちは」加藤シゲアキ、「四月になれば彼女は」川村元気 挙げる作品に悩むくらい、これらの作家さんたちの作品は大好きです。

#### —質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

このような賞に選んでいただけたのも、本を好きになるきっかけくれた家族と周りの人たち、そしてなにより、応募することに背中を押してくれた友達のおかげです。併せて、賞に携わっていただいたすべての方に感謝したいです。ありがとうございました。

## 附属図書館長賞

### 「ロストティーン」

吉野 美羽

#### —質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

二十歳になって現状や将来への不安が増え始めてきたのですが、そのような感覚を文章で残しておきたいと思い今回応募させて頂いた作品を書きました。

#### —質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

三人の主要な登場人物の書き分けが楽しかったです。そのうちの一人の名前を出さないまま話を展開させることが大変でした。

#### —質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

自分は長い文字数の規定がある賞に応募する以外に長い小説を書くという踏ん切りがなかなかつかないので、このような賞はとても素晴らしい機会だと思います。偉そうなことは言えないしありきたりですが、好きなものを書くのがいちばんいいと思います。

#### —質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』『青が消える(Losing Blue)』、吉田篤弘『それからからはスープのことばかり考えて暮らした』、又吉直樹『東京百景』、三浦しをん『のののはな通信』

#### —質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

自分は文芸サークルセピアという団体に所属しているのですが、そこで色々な人や作品から受けた刺激が文章を書く上での大きなモチベーションになっています。ホームページやSNSもあるのでぜひ覗いてみてください。



# 第16回 熊本大学 東光原文学賞 表彰式 (令和6年1月12日開催)

「熊本大学 東光原文学賞」は、熊大生の言語力向上と創造性豊かな学生の育成、さらに地域社会における文学・文化活動の中核となる人材輩出等を目的に平成20年度に創設され、今年度で16回目を迎えました。熊本大学の前身、旧制五高では夏目漱石や小泉八雲が教鞭をとっており、五高卒業生には、寺田寅彦氏、下村湖人氏、犬養孝氏、木下順二氏、中野孝次氏らが名を連ね、数多くの文化人を輩出しています。そんな先人に続けという思いもこめられた文学賞です。

本年度は15篇の応募があり、審査の結果、学長賞1篇、附属図書館長賞3篇を選出、1月12日(金)に中央館ラーニングcommonsにて表彰式を執り行いました。選考委員の先生方からは「応募作は力作揃いだった」との講評をいただき、晴れやかな式となりました。受賞者のみなさん、本当におめでとうございます。惜しくも受賞を逃したみなさん、ご応募ありがとうございました。次回作も期待しています。

受賞作品は「熊本大学東光原文学賞作品集」として3月に刊行予定です。図書館内にて無料配布しますので、ぜひ手に取ってご覧ください。また図書館ホームページでも公開していますので、過去の作品集をいつでも読むことができます。



さあ、次はあなたも?ご応募をお待ちしております。



## 図書館のできごと (2023.10-2024.1)

10/5-11/14	教員による学生用図書推薦(中央館)
10/11-10/19	後期 文献検索講習会 開催(ZOOM及び対面)
10/17	第3回附属図書館運営委員会(Web会議)
10/20-11/21	ロビー展示「令和5年度貴重資料展特集」開催
10/20-12/26	ロビー展示「令和5年度学生選書祭」開催
10/23-10/31	図書館TAによる留学生・3年次編入生向け図書館ツアー開催:全6回
10/25-1/22	附属図書館でクラウドファンディングを実施
11/2-11/4	第38回貴重資料展「甦る歴史資料群—修復された絵図・古文書展—」開催
11/3	公開講演会・第17回永青文庫セミナー「古文書修復の実践と知見の蓄積」、「甦る歴史資料群—近世初期細川家の「御国」と「公儀」—」
11/20	熊本学園大学付属高等学校 中央館施設見学
11/15, 11/22	保健学科リサーチトレーニング(医学系分館)
11/27-12/4	後期 図書館TAによるセミナー開催(ZOOM及び対面):全6回(就活セミナー・論文の書き方セミナー・大学院進学セミナー各2回)
12/6	広島市立早稲田中学校 中央館施設見学
12/6	文献管理ソフト講習会①「Mendeley 機関版」開催(オンライン)
12/8-12/11	書架新設工事に伴う中央館南棟1階閲覧室の一部利用制限
12/13	文献管理ソフト講習会②「EndNote Online」開催(オンライン)
12/19	第3回附属図書館医学系分館運営委員会
12/21	第4回附属図書館運営委員会
1/5-3月下旬	ロビー展示「読んで知る幕末の熊本と新選組」開催
1/12	第16回「熊本大学東光原文学賞」学長賞及び附属図書館長賞受賞作品発表&表彰式
1/29-2/9	除籍図書の学生への無料配布(土日除く)

## 「第38回 貴重資料展」を開催!

甦る歴史資料群—修復された絵図・古文書展—  
令和5年11月2日(木)~11月4日(土)

3日間の来場者は**413名**、学外からも大勢お迎えしました。期間中に「公開講演会・第17回永青文庫セミナー」を開催。こちらにも**136名**の参加があり、「一次資料の持つ力に圧倒される思いがした」「文化財を後世に伝えることの重要性を感じた」等の声が寄せられました。



演題(1):  
「古文書修復の実践と知見の蓄積」  
講 師:藤井良昭 修理工房 宰匠株式会社 代表取締役

演題(2):  
「甦る歴史資料群-近世初期細川家の「御国」と「公儀」-」  
講 師:稲葉継陽 熊本大学永青文庫研究センター長 教授

なお、上記「公開講演会・第17回永青文庫セミナー」は、近日中に動画を公開する予定です。

## 御礼! クラウドファンディング!



記録は宝  
熊本大学「松井家文書」  
宮本武蔵の記述と新たな発見を未来へ

松井家文書を後世へ繋ぐため、10月25日から1月22日までクラウドファンディングを実施しました。支援者数は279人、ご支援総額463万6千円を達成しました!

ご寄附いただきました皆様、  
あたたかいご支援をありがとうございました!